

三階層 TA 制度 “Hirodai TA” における LMS 研修の実施

隅谷 孝洋¹⁾, 戴 容秦思²⁾, 中野 登志美²⁾, 後藤 孔³⁾

1) 広島大学 情報メディア教育研究センター

2) 広島大学 教育室 TA サポートデスク

3) 広島大学 教育学研究科

sumi@riise.hiroshima-u.ac.jp

LMS Workshop in Three Levels TA System “HIRODAI TA”

Takahiro Sumiya¹⁾, Rongqinsi Dai²⁾, Toshie Nakano²⁾, Toru Goto³⁾

1) Information Media Center, Hiroshima University.

2) TA Support Desk, Education Office, Hiroshima University

3) Graduate School of Education, Hiroshima University

概要

広島大学で実施されている TA 向けの LMS 研修の事例を紹介する。この LMS 研修は、“HIRODAI TA” と呼ばれる三階層の TA 制度のうち、研修を受けて資格を取得する必要がある QTA 向けのものである。一方、2001 年度に LMS を導入して以降、教員向けの研修会をずっとおこなっているが、TA 研修により、より若い層に LMS の活用方法を学んでもらう意図がある。ここでは、2001 年度から運用されている LMS と、2016 年度から実施されている新しい TA 制度について簡単に紹介し、さらに、TA 制度の中で行われている LMS 研修について紹介する。

1 はじめに

2016 年度より、広島大学は新しいティーチングアシスタント (TA) 制度を開始した。

「HIRODAI TA」と呼ばれているその制度のもとでは、TA はフェニックス・ティーチング・アシスタント (PTA)、クオリファイド・ティーチング・アシスタント (QTA)、ティーチング・フェロー (TF) と三階層化される (図 1)。PTA は授業に関連する軽作業の支援をするもの、QTA は授業での学習活動の支援を行うもの、TF は授業計画に関わり一人で授業の一部を担当できるものとされている [1]。

PTA は特に資格を要しないが、QTA と TF になるには、研修などを経て資格を取る必要がある。

この制度は、より実質的で教育効果があがり、かつ TA として働く学生本人にとっても教育的意義があるような TA 制度を目指して制定されたものである。

ここでは、TA の三階層の一つである QTA の研修において、LMS 研修がどのように扱われているのかについて紹介する。

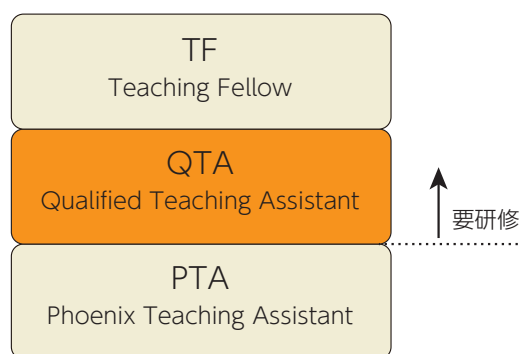


図 1 HIRODAI TA の三階層

2 これまでの LMS 運用と研修

広島大学では 2001 年に初めて LMS を導入した。利用した LMS は、カナダで開発され当時まだ日本語化も途上であった WebCT 3.5 である。

その後、登録 ID と全学 ID の統合や、教務システムとの連携などを経て、現在は Blackboard Learn R9.1 を運用している (図 2)。昨年度 (2016 年度) には、アクティブなコースが前後期共に 1000 を超えている。

LMS は汎用的な教育ツールであるが、機能も多くトレーニングをしないと使うことが難しい場合がある。学生として利用するよりも、特に教員として利用する

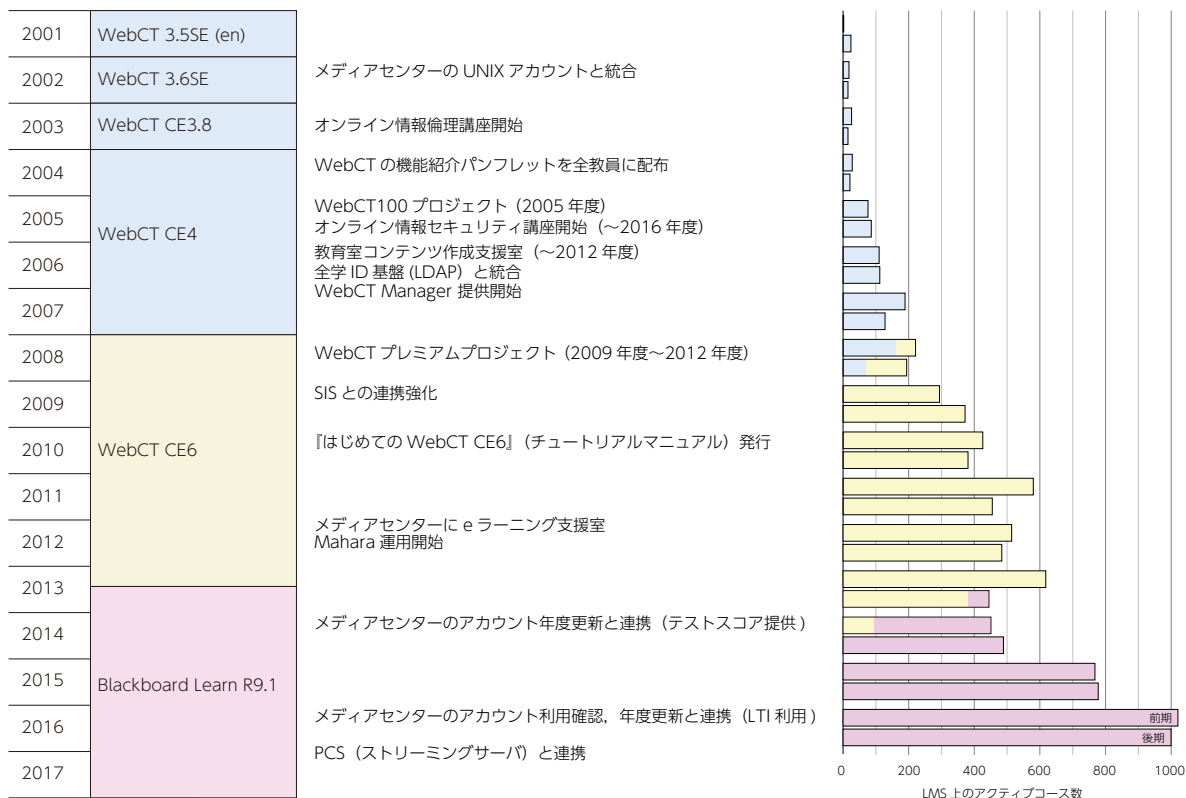


図2 広島大学における LMS 利用のこれまでと、各年度学期のアクティブコース数

ことの方がハードルが高い。

本学では、2001 年度の導入時から講習会を開催し、教職員に参加を呼びかけてきた。開始当初は毎回 40-50 名の参加があったが、時間とともに参加人数は減ってくる。意欲のある教員には一通り行き渡ったからだろう。

そこで 2008 年度から 2011 年度までは、全体講習の回数を順次減らしてゆき、「出前講習会」と称して個別教員の要望に応じる形での講習会を開催してきた。

2012 年度以降は、出前講習会も終了した。現在は、教員向けには新任教員の FD の中で取り扱うのみとなっている。年に 4 回程度の実施である。

3 TA に対する LMS 研修

三階層の TA のうち、最も人数が多く授業数も多いのが二番目の QTA である。QTA として TA 業務を行うためには、研修を受けて QTA 資格を取得をする必要がある。

QTA 研修は、全体研修を 90 分受講したのちに、いくつか開かれている分科会のうち一つを選択受講し、終了となる。分科会の内容は研修日より異なり、

- アクティブラーニング型授業

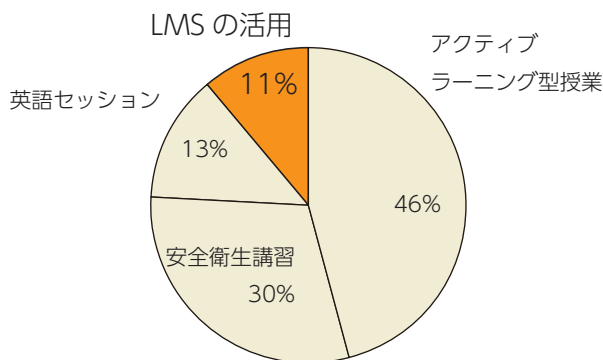


図3 QTA 研修会における分科会选择率

- 安全衛生講習
- 英語セッション
- LMS の活用

の四つから二つが開講されている。時間は全体研修と同様に 90 分である。

2016 年度を受講者数はトータルで 1708 名で、四つの分科会の選択率は図3に示したとおりである。アクティブラーニングの人气が高く、LMS の選択率は最も低かった [2]。

研修時に使用した資料 [3] では、おおむね以下の内容を説明している。

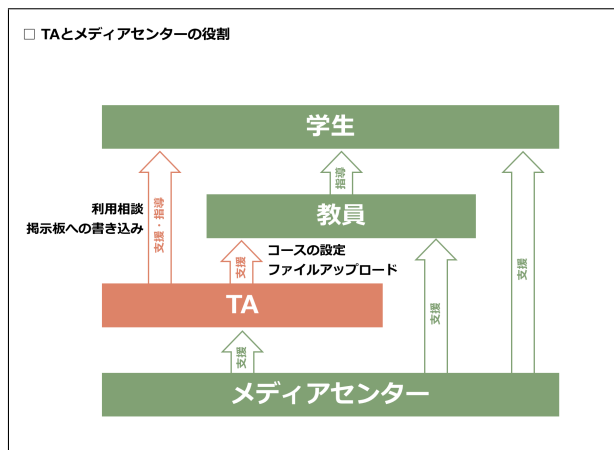


図4 TAによるLMS利用支援

表1 LMS研修の実施状況

年度	学期	実施回数	受講者数
2016年度	前期	4	91
	後期	2	25
2017年度	前期	3	142
	後期	1	11
合計		10	269

1. LMSの機能の概要
2. 資料掲載方法
3. 掲示板利用方法
4. 課題作成方法
5. オンラインテスト作成方法

受講者は大学院生であり、これまで学生としてLMSを利用していた経験は長いため、LMSの機能自体はわかっている者が多い。そのような経験を踏まえて、教員としてコースを管理する手続きへと導入するので、一般の教員向けよりもむしろ円滑に研修を進めることができる。

それでも、時間的制約により研修で実際に扱えているのは、前出リストの1,2,5程度である。

教員向けの研修会の場合とは異なる部分もある。前述の導入部分のほか、TAとしてどのような学習支援、授業運営支援が求められているかということについて、図4のようなスライドを使って簡単に説明している。

4 受講者へのアンケート

2016年度前期の制度開始以降、QTA研修内でのLMS研修の実施回数と受講者数を表1に示す。

これらの受講生のうち、メールアドレスが有効で

ある230名についてアンケート調査を行なった。アンケート期間は2017年9月24日から30日まで。Web上にアンケートフォームを用意し、各学生に電子メールで回答を依頼した。回収数は29(回収率は13%)だった。

主な結果を図5に示す。

研修を受けた29名、実際にTA業務を行なったものは79%に当たる23名だった。TA業務の予定がなくても、資格だけをとる目的で受講していたものも少なくないことがわかる。

TA業務を行なっていた23名のうち、担当した授業で教員がLMSを使用していたのは9名だった。全授業でのLMS利用率はおよそ20%と推定しているので、それよりはやや多い結果となった。

LMSを利用していたと回答した9名について、TAとしてLMS利用を支援したかを聞いた。教員に対する支援と学生に対する支援を別の問いとしてたずね、「支援していた」と答えたものはそれぞれ1名と3名だった。学生に対する支援内容は、「課題の提出方法など基本的な操作方法を教えた」というものだった。教員に対する支援内容は「課題の採点を行なった」というものだった。

5 まとめと今後に向けた課題

アンケート調査によると残念ながら、QTAはわれわれの思惑のようにLMSの利用支援者としては、まだまだ機能していない結果となった。

本研修は、もともとTA制度からの要請により開始したものである。QTAとして望まれるスキルに、議論のファシリテーション能力や、外国語運用能力などさまざまなものがあり、その中の一つとしてICT活用能力がある。そのスキルを身につけるきっかけとなるべく、本研修が開始された。

一方、メディアセンターで実施しているLMSの教員向け研修会は、新任教員研修の中でだけ実施されている状況になっており、これまで以上に利用を伸ばすには、別の方向からのアプローチが必要とされていた。

TAになる学生に対してLMS運用教育を行うことで、各授業内もしくは研究室で(多くのTAは担当教員の研究室で選任されている)でのLMS支援体制を築くきっかけになるのでは、という期待がある。

今後、引き続きQTA研修内での基礎的なLMS研修をおこなうとともに、TAと教員が並んで共に学べるような研修を実施していきたいと考えている。

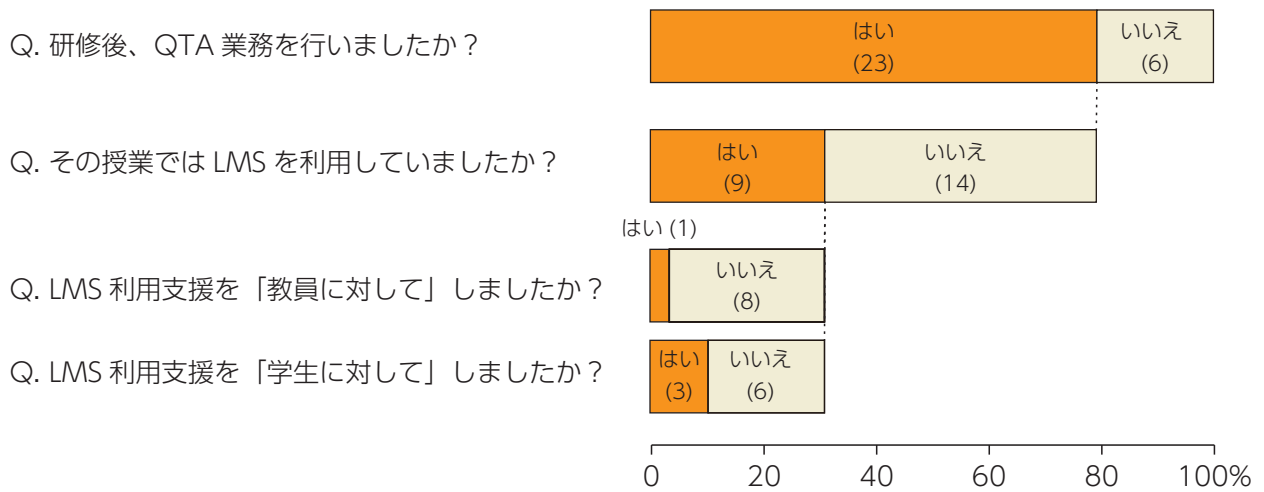


図5 LMS 研修受講者アンケート結果

参考文献

- [1] HIRODAI TA, <http://www.hirodai-ta.hiroshima-u.ac.jp> (2017年9月30日閲覧).
- [2] 丸山恭司, 戴容秦思, 中野登志美 「三階層ティーチングアシスタント制度『Hirodai TA』の理念と実践」 高等教育研究叢書 137 「スーパーグローバル大学創生支援事業による広島大学の教育力・研究力強化」, pp.71-94, 2017.
- [3] Bb9 の活用方法を学ぶ, <https://www.slideshare.net/TakahiroSumiya/qta-bb9> (2017年9月30日閲覧)